

報告書〔3〕 分析結果及びフローシート

3 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

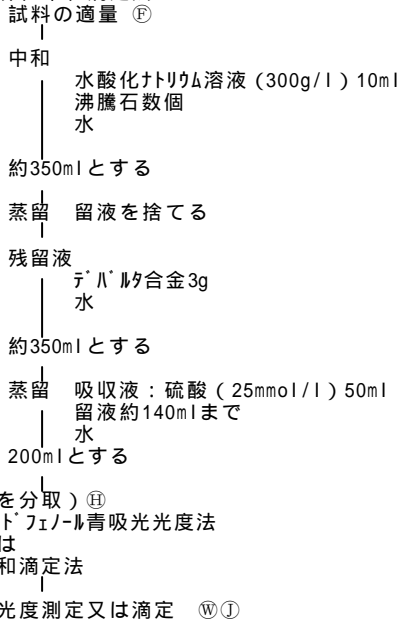
分析実施機関名	整理番号	*	*	*	国際的な認証の取得	1. ISO 9001 2. ISO 9002 3. ISO 9003 4. ISO 14001 5. なし
分析主担当者名		*	分析主担当者の経験年数	年	分析主担当者の実績(検体数)	検体

注1) 分析結果 (mg/l)	標準偏差 (mg/l)	測定回数 (回)

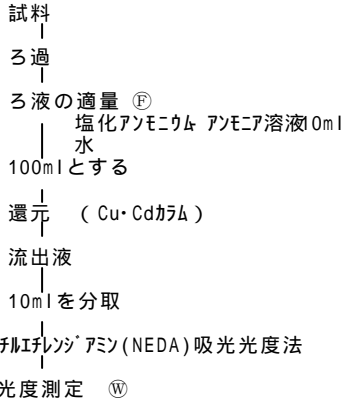
注1) 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度として示す。換算方法等は、実施要領の参考方法の3.を参照する。なお、2回以上の測定を行った場合は、平均値を記入する。

分析開始日	月	日
分析終了日	月	日

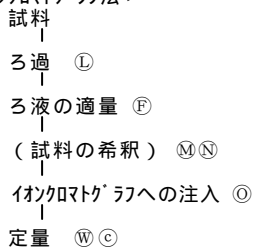
< 還元蒸留-インドフェノール青吸光度法 >
< 還元蒸留-中和滴定法 >



< 銅・カドミウム還元-ナフチルエチレンジアミン吸光度法 >



< イオンクロマトグラフ法 >



< ナフチルエチレンジアミン吸光度法及びβ-β'-ジメチルベンジジン吸光度法 >
(硝酸性窒素)

β-β'-ジメチルベンジジン吸光度法 ⑲⑳
(亜硝酸性窒素)
NEDA吸光度法 ㉑㉒

< 分析法等 >

分析法	1. 還元蒸留-吸光度法 2. 還元蒸留-滴定法 3. Cu・Cdカラム還元-吸光度法 4. イオンクロマトグラフ法 5. NEDA吸光度法及びβ-β'-ジメチルベンジジン吸光度法 6. その他()
分析結果 硝酸性窒素 亜硝酸性窒素	③() mg/l ④() mg/l
測定波長	⑤() nm ⑥() nm
試料量	⑦() ml ⑧() ml

(注) ③及び④は、個別の分析結果が分かる場合にご記入ください。
硝酸性窒素と亜硝酸性窒素を同時に分析した場合には、⑤及び⑥に、硝酸性窒素と亜硝酸性窒素を別々の吸光度法等で分析した場合には、⑤及び⑥に硝酸性窒素、⑥及び⑦に亜硝酸性窒素のものを記入してください。

< 還元蒸留法 >

分取量	⑧() ml
-----	---------

< 滴定法 >

50mmol/l水酸化ナトリウムのファクター	⑩()
50mmol/l水酸化ナトリウムの滴定量 試料の滴定量 空試験の滴定量	⑪() ml ⑫() ml

< イオンクロマトグラフ法 >

試料のろ過	⑬ 1. 行う 2. 行わない
試料の希釈 希釈した場合	⑭ 1. 行う 2. 行わない 希釈倍率⑮() 倍
イオンクロマトグラフへの注入量	⑯() μl
装置 型式 メーカー名	⑰ 1. サンプルレス型 2. ノンサンプルレス型 ()
カラム 型式 メーカー名	()

(注) クロマトグラムには、ベースラインを引いてください。

< 検量線の作成等 1 >

項目	⑱ 1. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 2. 硝酸性窒素
検量線	作成点数⑲() 濃度範囲⑳() ~ ㉑() μg(注入量) 最高濃度の指示値㉒() 空試験値(指示値)㉓()
試料の指示値	指示値㉔()

< 検量線の作成等 2 >

項目	1. 亜硝酸性窒素
検量線	作成点数㉕() 濃度範囲㉖() ~ ㉗() μg(注入量) 最高濃度の指示値㉘() 空試験値(指示値)㉙()
試料の指示値	指示値㉚()

(注) 硝酸性窒素と亜硝酸性窒素の分析方法が異なる場合等においては、< 検量線の作成等 1 > に硝酸性窒素、< 検量線の作成 2 > に亜硝酸性窒素の結果を記入してください。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点

前処理について	-----
測定方法について	-----